

耕作放棄地解消業務にシステムを活用した事例を紹介します。

(1/2)

活用する団体： 市町村，農業委員会

## 取組概要

内容：耕作放棄地調査台帳を水土里情報システムの農地筆データに取り込むことにより，耕作放棄地の現状を把握でき，解消計画と解消状況の把握に活用している。

経緯：①過年度耕作放棄地調査によるExcel台帳が整備されており，毎年耕作放棄地の解消確認作業が行われ，台帳整理されている。

②水土里情報システムに耕作放棄地データを取り込み管理したい。

・一筆単位で属性に耕作状況を入力することにより，区分の色分け表示をすることが可能。

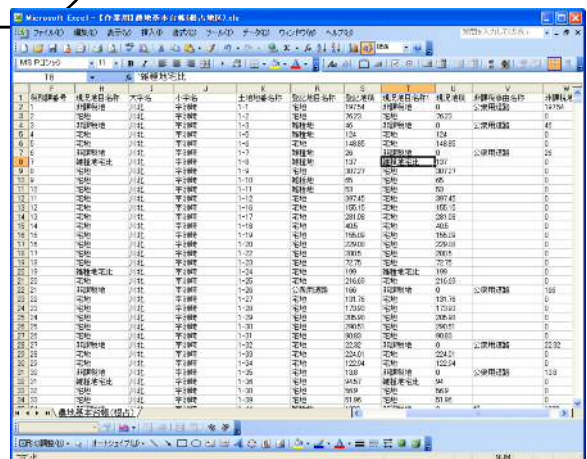
### 4. 耕作放棄地の色分け区分の考え方

耕作放棄地の色分け区分の考え方は、以下の通りです。

(1) 人力・農業用機械で草刈り等を行うことにより，直ちに耕作することが可能な土地（「農地」）【緑】

(2) 草刈り等では直ちに耕作することはできないが，基盤整備を実施して農業利用すべき土地（「農地」）【黄】

(3) 森林・原野化している等，農地に復元して利用することが不可能な土地【赤】

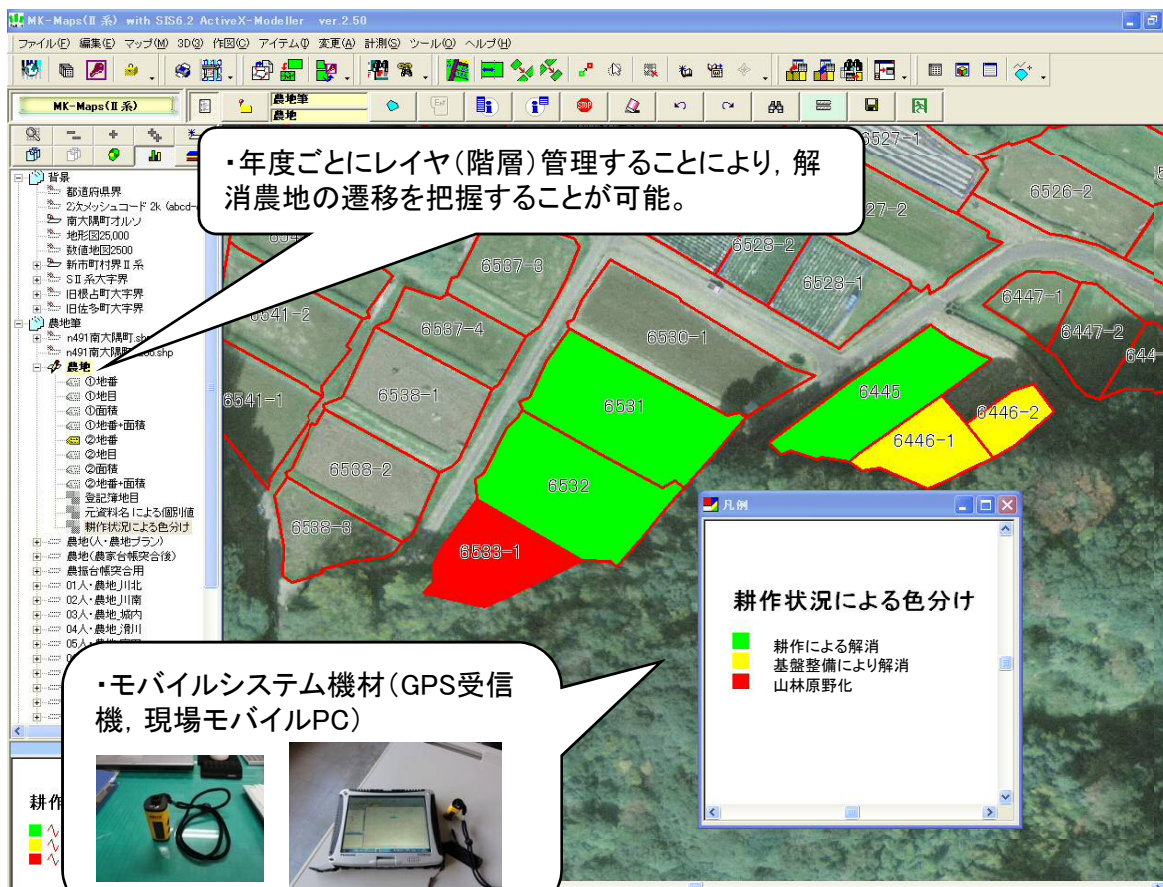


筆番号	地番	地目	面積	耕作状況	備考
1	1-1-1	農地	1000	耕作可能	
2	1-1-2	農地	800	基盤整備中	
3	1-1-3	農地	1200	森林化	
4	1-1-4	農地	900	耕作可能	
5	1-1-5	農地	1100	耕作可能	
6	1-1-6	農地	700	耕作可能	
7	1-1-7	農地	1300	耕作可能	
8	1-1-8	農地	600	耕作可能	
9	1-1-9	農地	1050	耕作可能	
10	1-1-10	農地	850	耕作可能	
11	1-1-11	農地	1150	耕作可能	
12	1-1-12	農地	950	耕作可能	
13	1-1-13	農地	1080	耕作可能	
14	1-1-14	農地	750	耕作可能	
15	1-1-15	農地	1250	耕作可能	
16	1-1-16	農地	650	耕作可能	
17	1-1-17	農地	1180	耕作可能	
18	1-1-18	農地	880	耕作可能	
19	1-1-19	農地	1020	耕作可能	
20	1-1-20	農地	720	耕作可能	
21	1-1-21	農地	1350	耕作可能	
22	1-1-22	農地	680	耕作可能	
23	1-1-23	農地	1120	耕作可能	
24	1-1-24	農地	920	耕作可能	
25	1-1-25	農地	1060	耕作可能	
26	1-1-26	農地	780	耕作可能	
27	1-1-27	農地	1280	耕作可能	
28	1-1-28	農地	620	耕作可能	
29	1-1-29	農地	1160	耕作可能	
30	1-1-30	農地	820	耕作可能	
31	1-1-31	農地	1040	耕作可能	
32	1-1-32	農地	740	耕作可能	
33	1-1-33	農地	1320	耕作可能	
34	1-1-34	農地	640	耕作可能	
35	1-1-35	農地	1140	耕作可能	
36	1-1-36	農地	940	耕作可能	
37	1-1-37	農地	1080	耕作可能	
38	1-1-38	農地	760	耕作可能	
39	1-1-39	農地	1260	耕作可能	
40	1-1-40	農地	660	耕作可能	

耕作放棄地台帳

## 期待される効果

- ①耕作放棄地の状況がマップ上に表示されることにより、現状把握が容易に行える。
- ②耕作放棄地解消計画を策定する場合、営農計画の集団化や山林化への検討ができる。
- ③モバイル機能を実装することにより、システム自体を現地に持参でき、調査と平行して耕作状況等情報をその場で入力できる。(従来の内業の省力化が可能)



耕作状況の色分け表示が可能

## 今後の活用予定

今後は早急な未解消地の解消に向けた計画を策定し、解消確認を随時行っていく予定。

## 利用者の声

現地において、耕作状況を直接農地属性情報に付加できるため、効率的に作業を行うことができる。年度ごとのデータの管理が容易。